

川柳地区の「新編武蔵風土記稿」

加藤幸一

雄山閣発行の「新編武蔵風土記稿」をもとに作成した。
()内の文字及び※の文章は、加藤が加筆した。

○麦塚村むぎづか

※八条領に属する。

麦塚村は江戸より五里余あまの行程なり、家数七十一、四境しきよう、南は青柳村あおやき、北は西方村にししかた、東は柿木村かきのき、西は伊原村いはらなり、東西五丁余あま、南北七町余あま、八条用水を引けり、当村正保しやうほの頃(二六四四～四七)は御料所ごりようしよにて、寛文二年(一六六二)阿部鉄丸あべてつ丸の家に賜たまわりてより今に然しかり、検地は寛永四年(一六二七)奥津角左衛門改めたり、古綾瀬川ふるあやせがわの辺あたりに新田あり、宝曆三年(一七五三)寛播磨守検地す、又、本所上水跡ほんじよじやうすいにも少しの新田あり、享保十八年(一七三三)長坂孫七郎・中島左衛門等糾ただせり(改め直す)、高札場こうさつば 村の中程にあり、小名こな 樟子山 笹塚 古綾瀬川ふるあやせがわ 村の西南かたの方にあり、女体権現社によたいごんげんしゃ 村の鎮守ちんじゆなり、智泉院ちせんいんの持もち、末社だいろくてん 第六天 稻荷 天神 疱瘡神ほうそうがみ 牛頭天王ごずてんのう

○八幡社二宇はちまんしゃ

※現在の葛西用水の右岸(伊原二―八―一〇)と左岸(川柳町三―一―三―二)に向かい合つてあつた。現在は建物はないが、石仏のみがそれぞれ残つている。右岸は「男体八幡神社」、左岸は「女体八幡神社」と刻まれた石仏である。

○雷電社 らいでんしゃ 以上三社、村民の持なり、

智泉院 ちせんいん 新義真言宗、柿木村東漸院末、無量山と号す、本尊大日だいにとち（如来）を安ず、地藏堂

○伊原村 いはら

※八条領に属する。

伊原村は江戸より五里半の行程なり、戸数七十五、東西五町余あまり、南北八町余あまり、南は青柳

村、北は西方村にししかた、東は麦塚村むぎつか、西は登戸村及び古綾瀬川を越こえて、足立郡槐戸村にも少しく

かゝれり、当村、御打入おうちいり（天正十八年、一五九〇年の家康の関東入国）の後は御料所にて、

寛文二年（一六六二）阿部豊後守に賜ひしが、元禄十二年（一六九九）に（幕府に）上り

て又御料となり、今に替かわ（変）らず、用水及び寛永の検地等前村ぜんそん（麦塚村）に同じ、

高札場 こうさつば 村の中程にあり、

古綾瀬川 ふるあやせがわ 村の西を流る、川幅六七間ほど、

久伊豆社 ひさいずしゃ 村の鎮守なり、成就院の持、末社 天王 天神

○八幡社 はちまんしゃ 地福院の持、末社 稻荷

○天神社 てんじんしゃ 村民の持、

※天神社は、現在の天神橋の北東側のたもと、「もんだな酒店」あたりにあった。

成就院 じょうじゆいん 新義真言宗、足立郡原村密蔵院末、威光山観音寺と号す、阿弥陀を本尊となせり、

○地福院 じふくいん 同宗（新義真言宗）にて、別府村慈眼寺べつぷ じげんじ（現・金剛寺）門徒、八幡山光明寺はちまんさんこうみょうじと号す、本尊不動を安ず、

※地福院は、八幡社の隣り、現在の八幡社の伊原新田集会所の建物から南側あたりにかけてである。